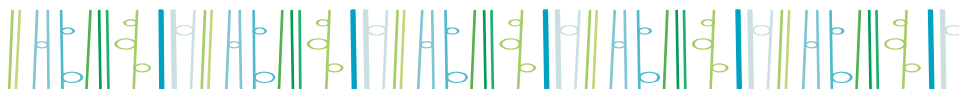


がん医療フォーラム2013 「がんと共生できる社会づくり」

来場者アンケート結果



共 催: 独立行政法人国立がん研究センター
公益財団法人がん研究会
東京大学死生学・応用倫理センター

後 援: 公益財団法人正力厚生会、厚生労働省、読売新聞社

開催日: 2013年9月1日(日) 14:30~17:00

会 場: 東京工科大学 蒲田キャンパス (東京都大田区)

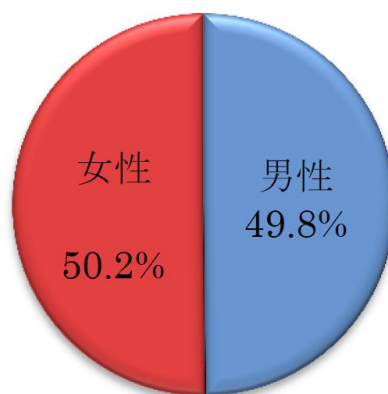


1. アンケート回答者数: 315人

2. 性別

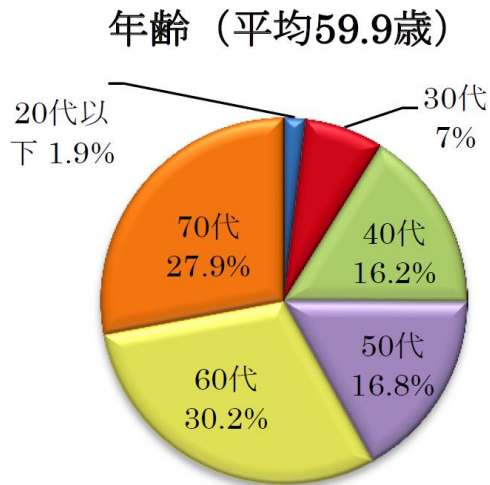
人数 (人)	
男	157
女	158
未記入	0

性別



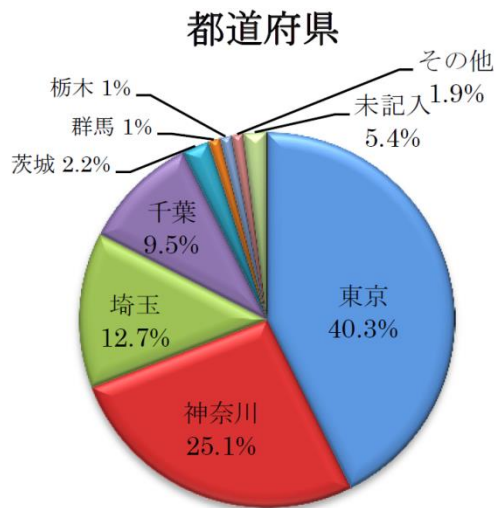
3. 年代

人数 (人)	
20代以下	6
30代	22
40代	51
50代	53
60代	95
70代以上	88
未記入	0



4. 住まいの都道府県

人数 (人)	
東京都	127
神奈川県	79
埼玉県	40
千葉県	30
茨城県	7
群馬県	3
滋賀県	3
栃木県	3
その他	6
未記入	17



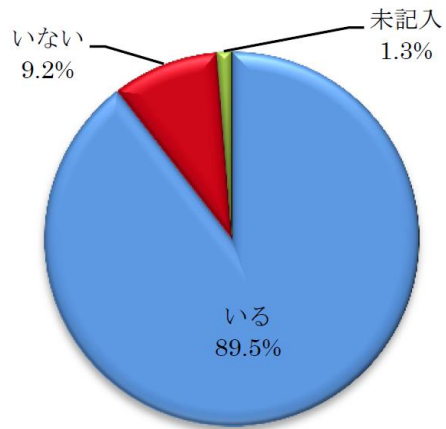
その他内訳) 秋田、宮城、新潟、岡山

5-1. 現在または過去に、ご自身、ご家族や周囲にがんにかかっている方の有無。

人数（人）

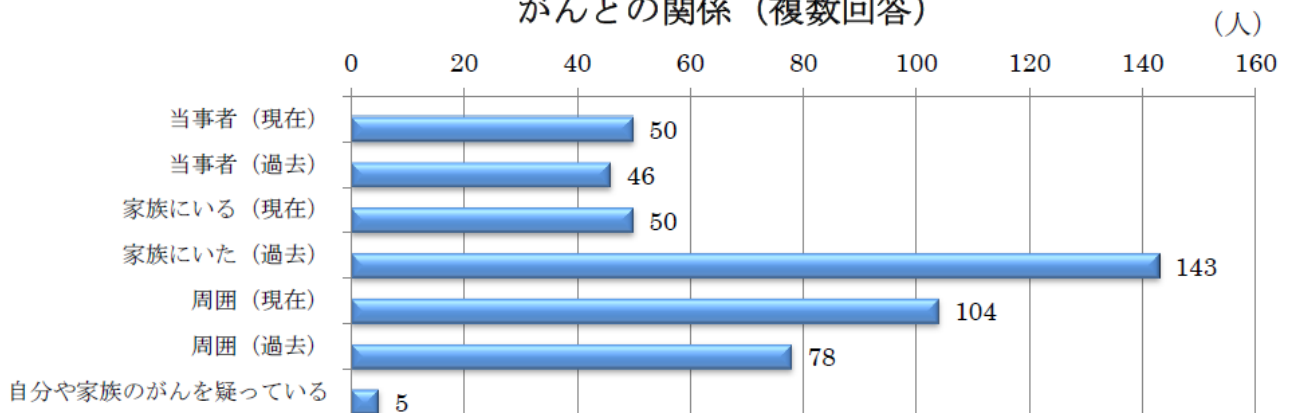
いる	282
いない	29
未記入	4

周囲にがんにかかっている人の有無



5-2. 上記5-1で「いる」と答えた場合、がんとの具体的関係（複数回答）。

がんとの関係（複数回答）

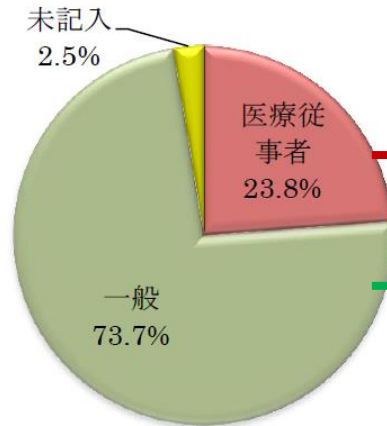


6. 職種

人数（人）

一般	232
医療関係者	75
未記入	8

職業（医療従事者 / 一般）

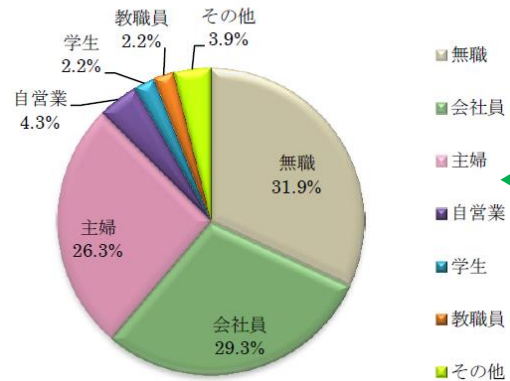


6-1. 「一般」の場合、具体的な職種名

人数（人）

無職	74
会社員	68
主婦	61
自営業	10
学生	5
教職員	5
その他	9

一般（232人）

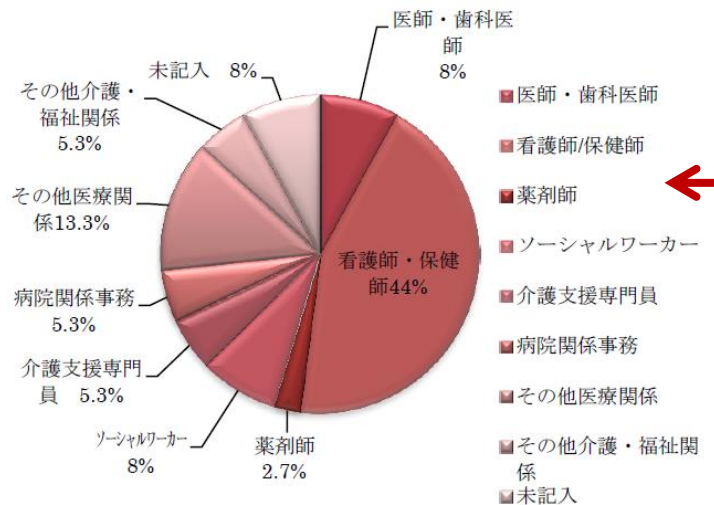


6-2. 「医療従事者」の場合、具体的な職種名

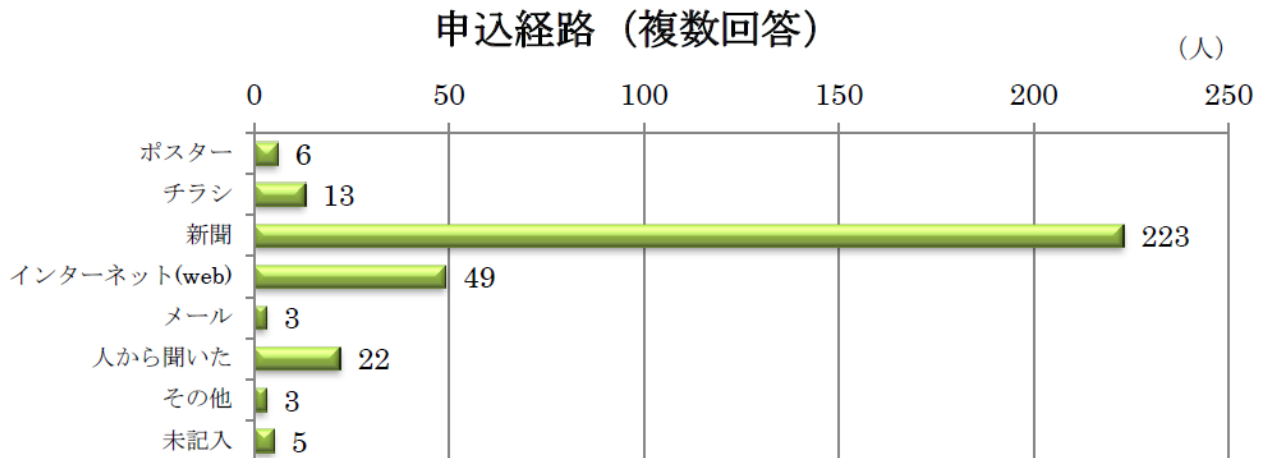
人数（人）

医師	6
看護師・保健師	33
薬剤師	2
MSW	6
介護福祉専門員	4
病院事務	4
その他医療関係	10
その他介護・福祉関係	4
未記入	6

医療従事者（75人）



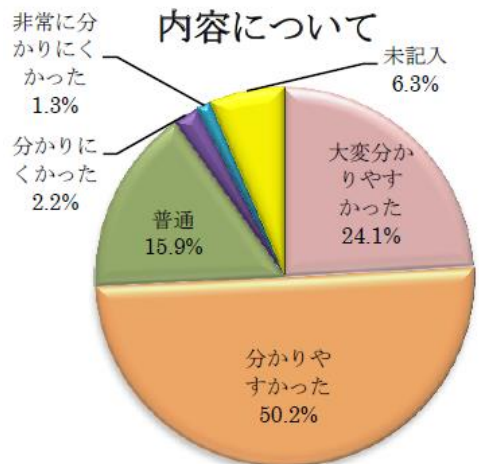
7. フォーラムを知ったきっかけ(複数回答)。



8. フォーラムの内容は分かりやすかったか。

人数 (人)

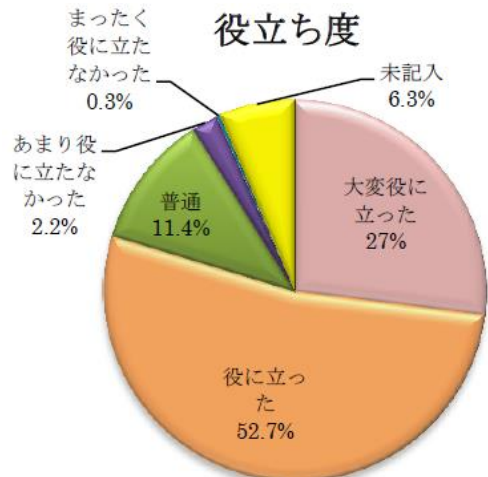
大変分かりやすかった	76
分かりやすかった	158
普通	50
分かりにくかった	7
非常に分かりにくかった	4
未記入	20



9. フォーラムの「内容」は役に立ったか。

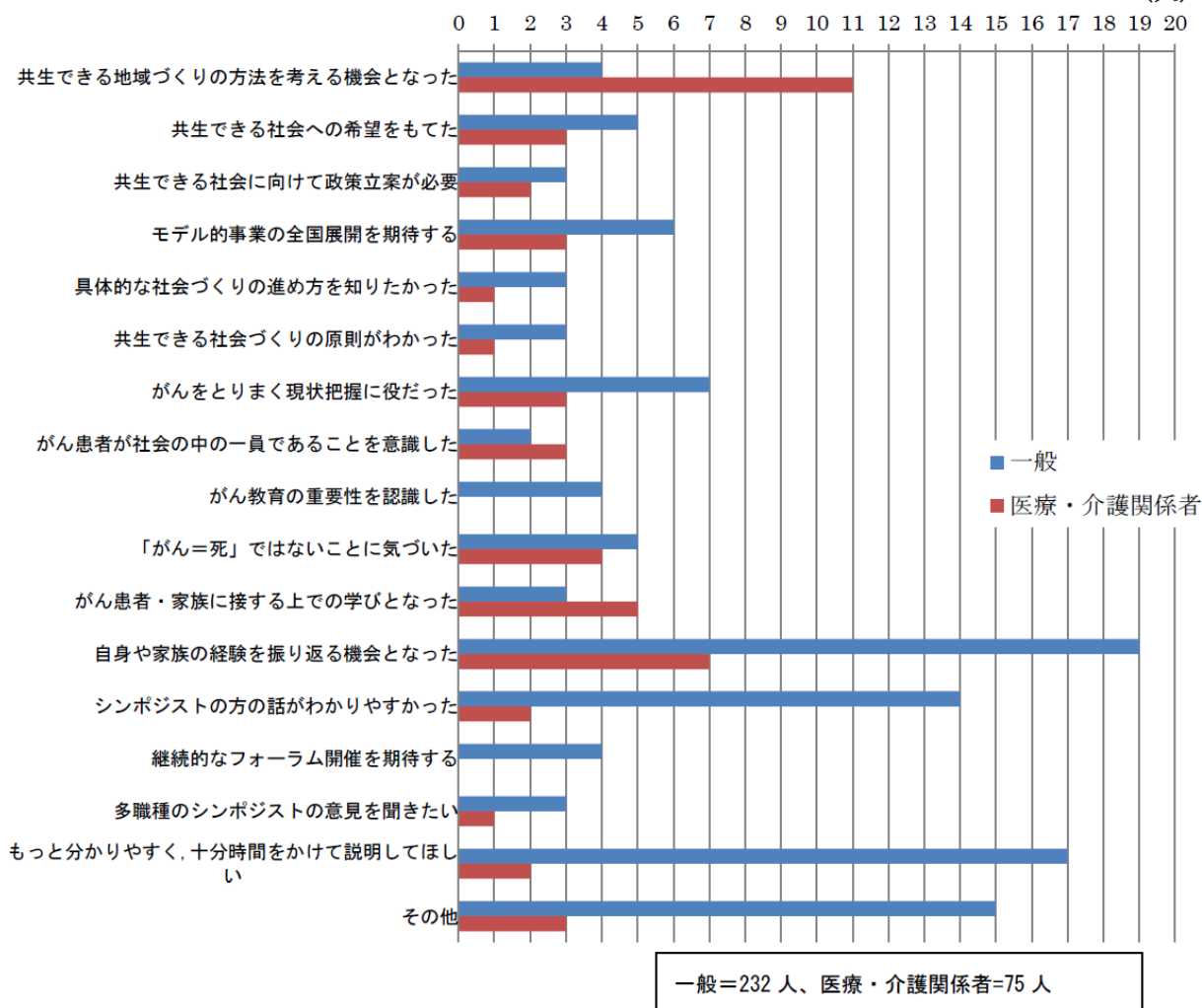
人数 (人)

大変役に立った	67
役に立った	172
普通	71
あまり役に立たなかった	7
全く役に立たなかった	1
未記入	16



10. フォーラムへのご意見・ご感想(自由記述を集計して表示)。

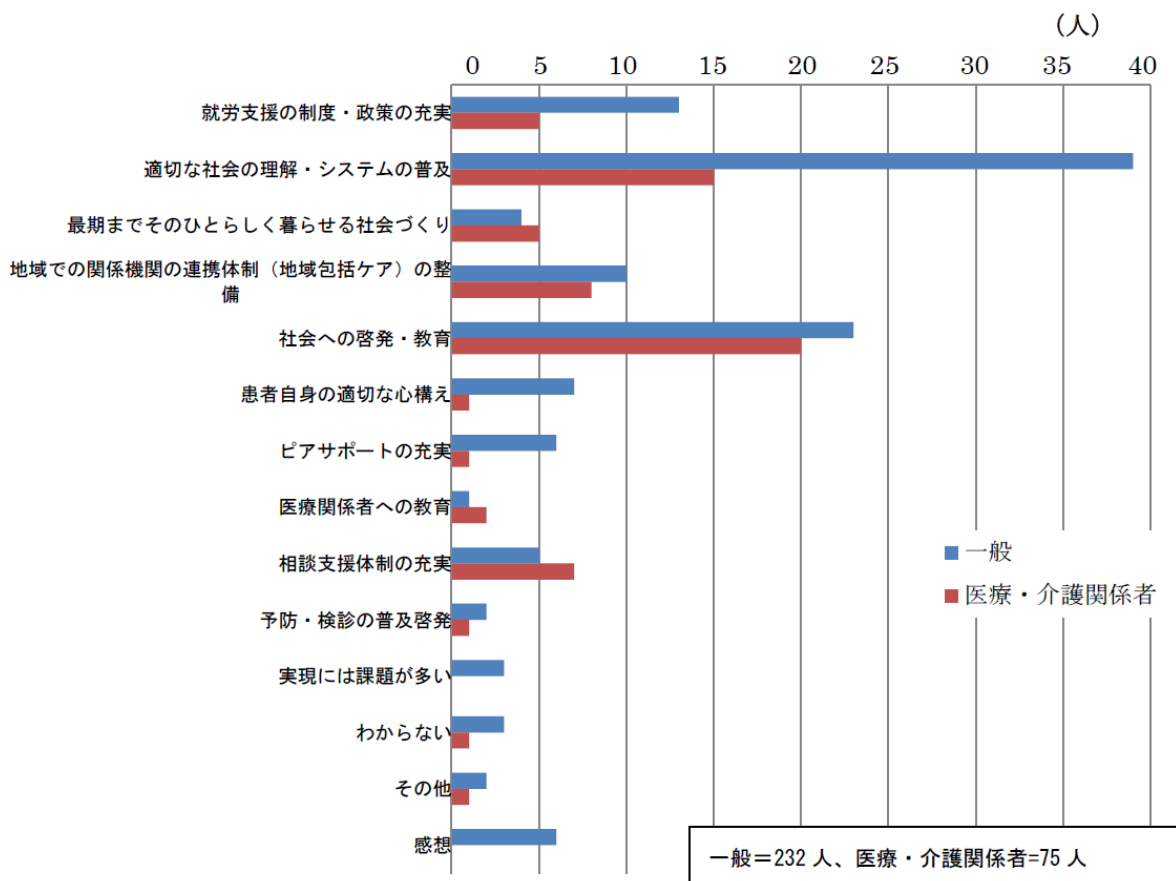
(人)



【寄せられた自由記述から】

- ・ 講演者の医師が、患者の抱く「働き続けること」への願いを、わがことのように受け止め、話をしておられる姿に「社会も変わる」希望をもった。
- ・ もし、がんを患ったら、これから先のことが心配になりますが、講演を聞いて大変勇気づけられました。気持ちを常に大きくして生活して行きたいと思います。
- ・ 「がんになっても一生は終わらない」の言葉に心打たれました。

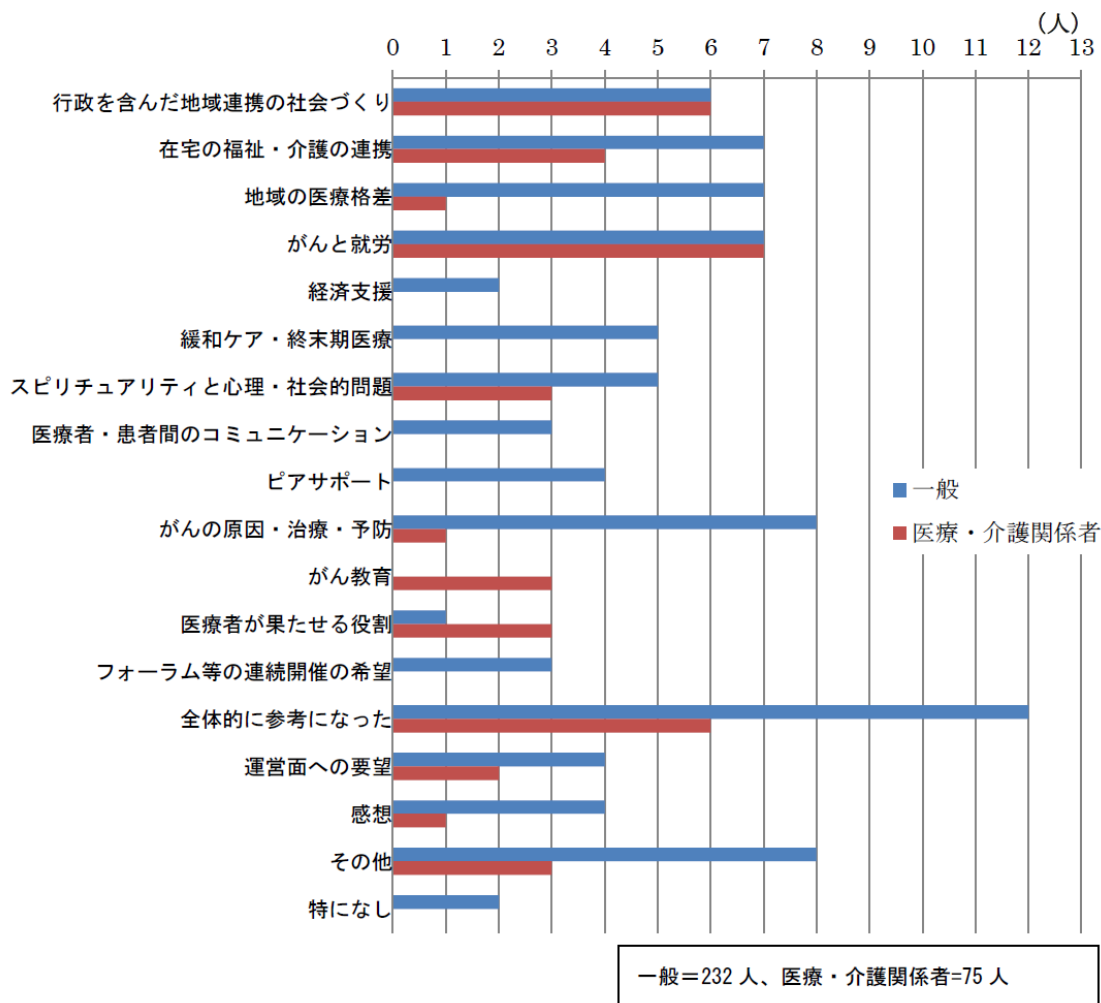
11. あなたの考える「がんと共生できる社会」とは、どのような社会ですか。また、その実現に向けて、どのような取り組みが必要でしょうか。ご自由にお書きください(自由記述を集計して表示)。



【寄せられた自由記述から】

- “がん”であることが普通のこととして受け入れられ、偏見のない社会であって欲しい。
- 誰でもがんになりうるという前提で世の中の仕組みができればよいと思う。
- 現状の制度の見直しからはじめていくことがまず必要と思います。
- 地域の自治会単位でのがんに関する勉強会の実施、啓発活動や、死生学の普及も必要。

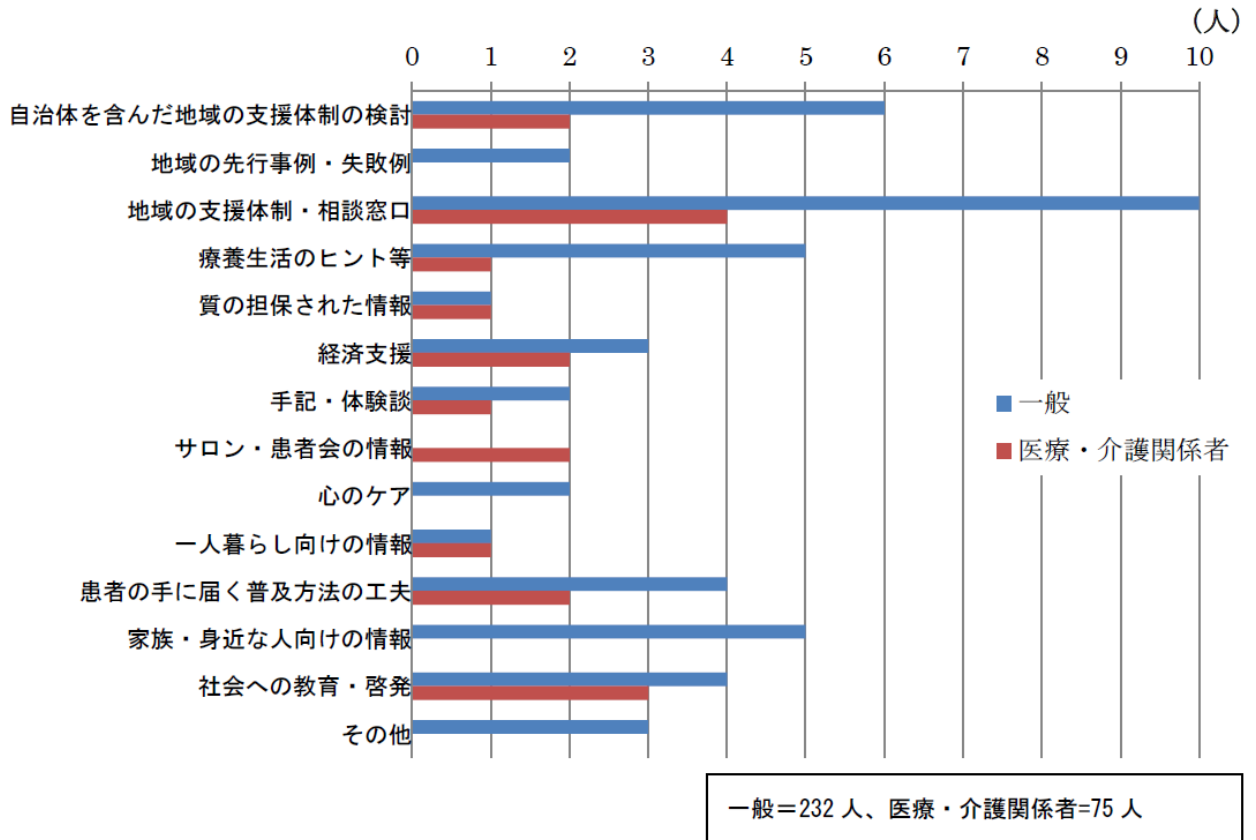
12. 本日のフォーラムでもっと詳しく知りたかった点や議論したかった点、お感じになったことなどをご自由にお書きください(自由記述を集計して表示)。



【寄せられた自由記述から】

- ・ がんと共に生きる時代になってきたことは よくわかりましたが、雇用者へはどのようなアプローチをされているのか具体的に聞きたかった。
- ・ 在宅医療や緩和ケアについて、もっと知りたかった。
- ・ 死生観、病に対する教育、知識の共有が、もっとも大切であると思いました。
- ・ がんでも働けるとというのが、嬉しかった、希望をもてました。

13. 最後に、「地域における緩和ケアと療養支援情報プロジェクト」全体についてお尋ねします。
 このプロジェクトでは、「がん患者の療養支援の手引(仮称)」を作成し、ご家族や支援者向けの療養支援に役立つ冊子の作成と普及を目指しています。療養支援に必要な情報、役に立つ情報について、ご意見やご提案をお寄せください。



【寄せられた自由記述から】

- ・「正しい」情報をどんどん出してほしい。
- ・日本のこれからの医療、在宅医療を考えて頂きたい。
- ・療養費、医療費支援制度など経済的情報を与えてほしい。
- ・身近なところでの相談機関、事例など分かりやすい内容と豊富な資料が必要と思います。